

星が丘地域学校園だより

令和5年度版

星が丘地域学校園教育ビジョン 「未来を見つめ、主体的に生き抜く力の育成」
～認め合い、学び合い、高め合う児童生徒を育てる取組を通して～

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響も少なくなり、コロナ禍以前のように地域学校園の活動を実施することができました。それらのことについてのご報告となります。

I 交流推進部会

(1) 中学校から小学校への乗り入れ授業

乗り入れ授業は、小中教職員の相互理解や指導の工夫・改善を目指すことを一つの目的としています。また、中学校教員による授業を体験することで、小学校6年生の中学校の学習に対する不安解消を図ることもねらいです。数学・英語以外の教科も実施することが決まり、今年度は戸祭小で数学、理科、昭和小で英語、美術、上戸祭小で国語、社会の授業を行いました。



戸祭小



昭和小



上戸祭小

(2) 小学校6年生の進学先中学校訪問

卒業を間近に控えた6年生に対して、中学校進学への期待を高めたり不安の解消を図ったりすることを目的として行われる活動です。今年度は1月19日（金）に実施され、6年生は中学校生徒会の執行部から、中学校の生活や学習の話聞き、実際に授業を参観しました。部活動については、映像で各部の活動の様子を視聴しました。中学校の学習、生活について知る良い機会になったと思います。



【学習と生活について】



【授業参観】



【部活動紹介】

Ⅱ 学習部会

1 学力向上分科会

【星が丘中学校】

研究主題 「多面的に考え、自らの考えを進んで表出する生徒の育成

・本時のねらいを共有し、意欲をもって学ぶ生徒の育成」

本校では、上記の生徒を育成するため、①確かな学力の定着、②自ら学び、自ら考える生徒の育成、③1人1台端末機器の活用を重点課題とし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を実現することで「思考力・判断力・表現力の育成」を図っています。

(1) 基礎・基本の定着を図るための各教科での取組

①「本時のねらい」を明確にした授業の展開と振り返り活動の定着、②eライブラリを活用した基礎・基本の定着のための反復学習、③「自主学習ノート」の活用による家庭学習の習慣化、④「5つの約束」(授業の約束)、2分前着席などの取組により学力を向上させ、学力調査等においても良好な結果となっています。

(2) 「主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業の工夫」

自らの考えを進んで表出するために、「考える場面」のある授業を実践することで、「課題をつかむ」→「話し合う(考える)」→「まとめる」→「発表する(表現する)」活動が定着しています。また、総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な学習や探究活動において、自分の考えを表出したり、意見を交換したりしました。さらに、疑問点を話し合うだけでなく、個人の端末でさらに深く調べたり、発表するためのスライドを作ったりするなど1人1台端末を文房具としても活用したりし、思考力・表現力も向上してきています。

(3) 「学力向上プロジェクト」

授業力向上を目指した校内研修会の充実

今年度は道徳科と数学科の2つの要請訪問を行いました。道徳科では、「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」を主題として、輪島塗を例に、郷土の伝統や文化に込められた職人や使う人々の思いから、これを受け継ぐことの意味を考える授業を行いました。研究協議では宇都宮市教育委員会指導主事から「持続可能な社会の創り手となる生徒の育成～SDGsに係る取組をとおして～」についての道徳科における学びについてのご指導をいただき、授業を参観した教職員同士の活発な意見交換がなされました。数学科では、ICT機器を利用した授業の創造として、「星型五角形の角の和」を求める方法を各自のタブレットで考える授業を行い、画面を共有することで多様な考え方があることに気づき、数学的な見方・考え方を深める活動となりました。



【戸祭小学校】

研究主題 「自ら考え、伝え合い、理解し、実践する児童の育成
～児童が納得と達成感を得られるための算数授業の工夫～」

本校では、算数科での授業実践を通して、児童が自ら問いをもち、課題解決への自分なりの見通しをたてる時間を確保するとともに、各自の考えを生かしながら児童同士が学び合う中で、自分や友達のよさに気づき、全ての児童が課題解決への糸口をつかめるような手立てや具体的な支援の在り方を研究しています。

本年度は、来年度の小教研の発表に向けて、全職員で授業改善に励み、目指す児童の育成に取り組ましました。

1年算数「かずのまとまりをつくって、ドングリのかずをかぞえよう」
ドングリを使用し、大きな数を数えるときの10のまとまりをつくるよさに気付く授業



2年算数「かけ算をつかって、おみやげの数をもとめよう」
おみやげが全員分あるのか数えやすくするために、様々な求め方があることに気づき、ペアで伝え合う授業



3年算数「0をわる場合の答えを考えよう」
わられる数が0のとき答えがどうなるのか、他者が何を伝えたいのか理解し合えるように関わり合う授業



4年算数「表を分析してポスターを貼る場所を決めよう」
数値を分析することでけが人を減らすための効果的な設置場所を考えていく授業



5年算数「平行四辺形の面積の求め方を考えよう」
アナログやデジタルを活用し、既習事項を活かして平行四辺形の面積の求め方を考える授業



6年算数「データを分析して、代表を決めよう」
データを多面的に分析することを通して、自分たちで調べて考え、身のまわりの問題の解決に活用する授業



【昭和小学校】

研究主題 「主体的・探究的・協働的に学ぶ児童の育成」

～「理科の見方・考え方」を働かせ、問いを生み・つなげる授業展開～

本校では、令和5年度と令和6年度、特に理科の授業を通して、主体的・探究的・協働的に学ぶ児童を育成していきます。

研究を通して、以下のような児童を育てたいと考えています。

- (1) 「理科の見方・考え方」を働かせ、問題を見だし続ける子ども
- (2) 自分の考えをもち、他者と積極的に関わり対話しながら粘り強く探究活動に取り組み、問題解決にあたる子ども

本年度は、市教育委員会の指導のもと、理科を中心に2回の要請訪問、また、全職員が研究テーマを意識した授業づくりに励んでいます。

<p>3年 「電気であかりをつけよう」 教材との出会いを大切にし、単元を通して学びたい問いを自分たちで見出し作り上げていく授業</p>	<p>4年 「電気のはたらき」 児童から出された問いをつないで、学習問題を作りながら進めていく授業</p>
 <p>明かりを灯すためにはどうしたらよいか、意欲と探求心をもって学習に取り組む姿が多く見られました。</p>	 <p>単元や実験の計画を自分たちで立てることにより、継続的な学習意欲の高まりが見られました。</p> 
<p>5年 「流れる水のはたらき」 予想をもとに、条件制御を考慮しながら実験の準備や実験を行う授業</p>	<p>6年 「植物のつくりとはたらき」 多面的に考え、より妥当な考えをつくり出す力を育てる授業</p>
 <p>予想したことを実証するために、ポイント（観察の視点）を確認しながら実験を行うことができました。</p>	 <p>前時までに調べた結果を、実物、個人用パソコン、印刷物などで準備したことにより、様々な視点から結果を考察することができました。</p>

【上戸祭小学校】

研究主題 「わかる喜び」「学ぶ楽しさ」を味わわせる授業の創造

～自ら考え、交流し、学びを深められる児童の育成～

本校では、高い意欲をもって課題に臨み、友達や自身をはじめ、様々な対象との対話を繰り返す中で自分の考えを深め、それを多様な方法で効果的に伝え合える児童の育成を目指しています。

本年度は、市教育委員会の指導のもと、国語科と算数科における2回の要請訪問、また、人権教育やプログラミング教育、一人一授業を通して、全職員で授業改善に励み、目指す児童の育成に取り組みました。

<p>1年：算数「くらべかた」 様々な具体物から適切なものを選び、その操作を楽しみながら、互いに比べ方の方法を話し合う中で、自分の考えを整理したり広げたりする姿が見られた。</p>	<p>2年：算数「100より大きい数」 自分の思考パターンの全体像を視覚的に把握できる「楽しさ」や「良さ」を感じられる活動を取り入れた。フローチャートをヒントとして、着実に「わかる」楽しさを味わっていた。</p>
	
<p>3年：算数「分数」 テープ図や数直線等を用いて、自分で考えた様々な方法を伝え合う活動を通して、学びを「じっくり」と深める姿が見られた。</p>	<p>4年：国語「走れ」 「話の内容を3年生に紹介する」という学習のゴールを「はっきり」と示すことで児童が目的意識を持って教材文を読み進めることができた。</p>
	
<p>5年：道徳「ノンステップバスのできごと」 様々な事例を自分事としてとらえ、日常生活での実践に繋げる活動を通して学びを深めている。投げかける発問を工夫したことで、児童の活発な意見交換が見られた。</p>	<p>6年：国語「風切るつばさ」 考えの理由や根拠を互いに質問し合い、登場人物の気持ちを話し合う活動を取り入れた。「なぜ。」「どうして。」と質問し合うことで、自分の考えを整理したり、深めたりする姿が見られた。</p>
	

2 道徳分科会

(1) 今年度の活動と成果、課題

- ① 地域学校園の道徳科の重点「個性の伸長」「思いやり・親切・感謝」について教科書の教材をもとに授業を行いました。
- ② いじめゼロ強調月間に、いじめに関連する教材を年計に位置づけ、実施しました。
- ③ 人権教育との関連を図り、標語を作ったり集会を行ったりし一人一人を大切に作る指導を行いました。「やさしさ貯金箱」「ありがとうカード」の活用を図り、自己肯定感を高めるとともに、日常生活においても認め励ます教師の言葉かけを増やすようにしました。
- ④ 学校行事や表彰等を自己肯定感の高揚に繋げることができました。
- ⑤ 授業で学習した道徳的価値についての知識・理解を実生活に活かせるよう、引き続き見守り、支援していきます。
- ⑥ 各教科の授業において、児童生徒同士の意見交換、相互評価の場を意図的に設定し、さらに、自己肯定感を高める機会を増やすようにしたいです。
- ⑦ クロムブックの効果的な活用が進みました。小学校高学年では、話し合い活動を活発に行うことができるよう、ジャムボードの共同作業機能やスクールタクトの共同閲覧機能を活用しました。事前・事後のアンケートも効率よく活用できました。中学校では、教科書教材の内容の関連動画を視聴させ、生徒の興味関心を高めるなど、効果的に活用しました。それに伴い、学習に関係のないところでクロムブックでの児童間のトラブルも発生しました。小中学校とも、学習におけるさらなる活用法を模索するとともに、情報モラル教育も行っていきたいです。

(2) 来年度に向けて

今後も児童生徒の自己肯定感を高めることを意識した指導を行います。

- ① 引き続き「個性の伸長」と「思いやり・親切・感謝」に重点をおきます。
- ② 教師と児童生徒とのやりとり、児童生徒同士の話し合い活動の中で、お互いの発言・意見を認め合う雰囲気の醸成に努め、自分と異なる意見にも寛容に、本音が言える環境づくり努めます。
- ③ クロムブックのさらなる効果的な活用方法を探ります。
- ④ 人権教育との関連を図り、社会情勢における現実的な課題や、身の周りの様々な課題への問題意識を高め、日々の生活の中で人権感覚を磨いていけるようにします。

3 図書分科会

(1) 今年度の活動と成果

- ① 「スター☆文庫」（星が丘地域学校園推薦図書）の推進…「スター☆文庫」コーナーの設置。「ほんよみnet」（学校園図書だより）でその本の中からクイズを出題し、取組を促進。プレゼントの「しおり」も好評。
- ② 「相互貸借」…小中間で、読み物と調べ学習用の本を貸借。今年度は、星中の図書委員が小学5・6年生向けにおすすめの本を選び、「福袋」として貸し出し、好評。また、小学校のクラスルームに、中学校の新刊を調べられるリストを掲載したところ、「相互貸借」の予約が増加。
- ③ 学校園内での様々な情報交換…各校の図書だよりの交換・掲示。おすすめの本の紹介カードの巡回と掲示。各種情報の提供。
- ④ 「読書標語」の募集と掲示…読書への意識を高める目的で実施。
- ⑤ 「本とのコラボ給食」…本と食の関連から、読書意欲を喚起する目的で実施。本年のテーマは、「ゆうすげ村の小さな旅館」（小学校の国語の教科書に掲載の作品）
- ⑥ 学校園図書だより「ほんよみnet」に「情報活用のための豆知識」のコーナーを掲載し、情報活用能力育成の一助としました。



↑ 「福袋」のディスプレイの様子(小学校)

本読むと 心のページめくられる 上戸祭小学校 S・T	本を読む 本の世界へ入りこもう 昭和小学校 N・H	この1冊が 明日の自分をつくっていく 戸祭小学校 K・I	読むと広がる、世界の見方 星が丘中学校 A・Y
-------------------------------------	------------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------

↑ 星が丘地域学校園図書館読書標語

(2) 来年度に向けて

- ① 生徒用PCと図書を併用した調べ学習に対応すべく、図書やリーフレットなどの紙の資料をさらに収集して提供できるように準備したいです。
また、授業に参画し、情報活用能力向上のための指導・支援をしていきます。引き続き、学校図書だより「ほんよみnet」でも「情報活用能力育成のための豆知識」のコーナーでも指導していきます。
- ② クロムブックやメディアを使い、図書や図書室に関する情報の発信を増やしたり、ブックトークや読み聞かせ、集会やイベントをさらに実施したりします。
- ③ NIE（新聞を教育に）の取組として、SDGsと絡めて、新聞記事をスクラップしたり、掲示したりして、関心をもたせたいです。また、授業へもその記事を提供していきます。



↑ 「本とのコラボ給食」のチラシ



↑ 星が丘地域学校図書だより「ほんよみnet」令和5年第1号

4 キャリア教育分科会

(1) 今年度の活動と成果、課題

- ① 「キャリアパスポート」の実施（各学年3回以上）を通して、学校、家庭及び地域社会において学んだことを振り返り（自己評価）、新たな学習や生活への意欲につながったり、今後の自分について考えたりする活動に役立てることができました。今後も児童生徒に目標を立てさせ、それに向かって努力や準備をし、取り組ませていくことで、達成感を味わわせたいです。
- ② 「キャリアパスポート」の記述に対して、保護者と学級担任、学級の友達からのコメント等の記入をすることで、対話的にかかわることができ、児童生徒の自己肯定感の高揚を図ることができました。
- ③ キャリア教育に関わる学校行事の実施により児童生徒の活躍の場が広がりました。
【中学校】：体育祭、働く人に学ぶ（1年）、冒険活動（1年）、宮っ子チャレンジ（2年）、立志式・スキー教室（2年）、高等学校訪問（2年）、修学旅行（3年）、一日体験入学（3年）など
【小学校】：町探検（2年）、施設巡り（4年）、冒険活動（5年）、職場体験活動（6年）、修学旅行（6年）など
- ④ 発表の場を設けることで、互いの頑張りを認め合い、充実感や自己肯定感を高めることができました。
- ⑤ 「宮・未来キャリア教育」の加除訂正を行い、新しい教育課程や学校行事の内容との一致を再確認する必要があります。

(2) 来年度に向けて

- ① 「キャリアパスポート」の実施などを通して、児童生徒に自分の目標を立てさせ、それに向かって努力・準備・実践ができるようにし、達成感を味わえるよう支援していきます。
- ② キャリア教育に関わる学校行事を実施していきます。
- ③ 「宮・未来キャリア教育」の年間指導計画の加除訂正をします。
- ④ 各学校の取組について情報交換を行い、小中で連携をして児童生徒の指導に当たります。

Ⅲ 体力向上・食育部会

1 体力向上分科会

(1) 今年度の活動と成果、課題

今年度の成果としては、小学校3校で共通した水泳検定票を用いて実施することができました。固定遊具を使った休み時間の外遊びの推奨に関わる取組では、どの学校でも、授業に取り入れて活動を行うことができました。持久力を高めるための取組の共有については、中学校では、遊びを取り入れたおにごっこの実施やシャトルランリレーを行ったことで、楽しく運動を行うことができました。また、持久力を高めるための取組の共有についても各校の実践を持ち寄り共有するとともに、実施することができました。それぞれの取組について交流し、取組の軌道修正や新しい実践を試みていくことが課題として挙げられます。次年度も引き続き「運動に進んで親しめる子」の育てていきたいと思ひます。

(2) 来年度に向けて

- ① 基礎感覚を高めるための様々な運動の充実。
- ② 持久力を高めるための取組の共有と実施。

2 養護分科会

(1) 今年度の活動と成果、課題

歯科保健の取組みとして、小3における歯の健康教室以外でも、小1と中1に歯垢染め出し検査を行える機会を設けました。自分の磨き残しを知ることで、より効果的なブラッシング方法に気付くことができたと思われまひます。また視力低下防止の取組みでは、学年が上がるにつれて、視力低下が進むという各校の実態を踏まえ、目のクイズやPCとの付き合い方に関する掲示物を作成したり、児童生徒保健委員会において目の健康を啓発する集会を実施したりしました。今年度の取組みは、目の健康を考えるきっかけ作りに留まったと思ひまひます。そのため、児童生徒、教職員や保護者の意識がより高まるように、取組みの継続が必要でひます。



(2) 来年度に向けて

次年度も、発達の段階に応じた系統的な保健教育を実施する中で、特に視力低下防止の取組みでは、目の健康を考えた生活習慣の定着を目指していきたくと思ひまひます。



3 食育分科会

(1) 「おにぎりの日」「お弁当の日」の実施

今年度は、各校の日程で「おにぎりの日」を、学校園統一テーマを「旬の食材を2種類以上使おう」とした「お弁当の日」を11月30日(木)に実施しました。各校で発達の段階に応じた事前の計画シート、事後の振り返りシートを活用し、実践しました。保護者から頑張ったことをほめていただき、うれしい体験となった児童生徒が多く、食材や調理方法への関心を高めることができました。また、日頃、自分のために食事を作ってくれることへの感謝の気持ちをもつことができました。



(2) 学校給食週間

1月24日(水)から30日(火)の全国学校給食週間には、テレビやお昼の放送を使って給食週間にちなんだ献立の紹介やクイズを行い、給食への興味・関心をさらに高めることができました。また、日頃お世話になっている給食調理員さんへの感謝の気持ちを伝えることができました。



放送で献立を紹介



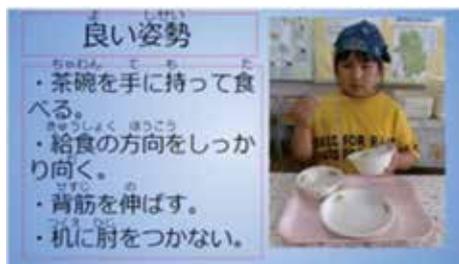
各校で給食調理員さんへのお礼の手紙を渡しました



(3) 日々の食育指導

星が丘地域学校園では、給食時や児童生徒の委員会活動を通して食育指導を行いました。給食時に献立や一口メモで料理の紹介を行ったり、食事マナー週間を設け、食器の配置やはしの持ち方等を映像やスライドにして知らせたりしました。この活動を通して、正しい配膳の仕方やマナーを理解することができました。来年度は、マナーを身につけて、継続できているかを検証したいと考えています。

新型コロナウイルス感染症が第5類感染症に移行した後の食育指導として、基本的な感染対策の徹底・継続と、手洗い・消毒、咳エチケット等の指導を行いました。



4 栄養職員分科会

(1) 仲よし給食 (1月・学校給食週間)

星が丘中学校の給食委員会で決めた「寒さに負けず かぜにも負けず 今日から僕たち健康だ!」をテーマに星が丘中学校の生徒に給食の献立を募集し、地域学校園の4校の児童生徒の投票により決まった献立を各校で実施しました。

「星が丘地域学校園食育だより」を発行し、選ばれた献立について紹介しました。

【献立】

- ・わかめごはん ・牛乳
- ・照り焼きチキン
- ・磯辺和え
- ・冬野菜たっぷりけんちん汁



(2) 本とコラボ給食（10～11月）

本にちなんだ料理を給食に取り入れ、各学校の図書館でその本を紹介しています。今年度は「ゆうすげ村の小さな旅館～ウサギとダイコン～」より各校でダイコンをたくさん使った献立にしました。各学校でお昼の放送や図書室や給食室前の掲示コーナー等を活用し、本や料理についてお知らせしており、児童生徒は楽しみにしています。



旬の美味しいダイコン
をたくさん使った献立



(3) 食物アレルギー対応食確認・学校園共通献立の選定

毎月、栄養職員分科会を実施し、次の月の食物アレルギー対応について、詳細な献立表をもとに、調理や加工品の原材料について確認をしています。

確認作業を効率よく実施し、食物アレルギー事故防止のため、地域学校園で全体の2/3献立を共通献立にしています。

IV 学校生活部会

1 児童生徒指導強化連絡分科会

今年度は、「自己肯定感を高める指導の充実」という全体テーマのもと、本分科会では「社会的な自立を目指す指導の充実といじめ・不登校対策の強化」を重点目標として「あいさつ運動の推進」と「いじめゼロ運動の推進」のため下記のような取組を行いました。

(1) 「あいさつ運動の推進」への取組

「あいさつ運動」は学校園内各校独自で行っている他、「小中合同あいさつ運動」を今年度は前期に2回（7月3日、9月7日）、後期に1回（11月13日）の3回実施しました。小学生と中学生が一緒に「あいさつ運動」を行うことで小中連携の一助となりました。

戸祭小学校・・・児童会による週2回の登下校時のあいさつ運動

あいさつ運動への意欲向上のため、代表委員による表彰の実施

上戸祭小学校・・・マナーアップ委員会による昇降口でのあいさつ運動（毎週木曜日に実施）

月の生活目標の中であいさつを奨励する

昭和小学校・・・代表委員会によるあいさつ運動(毎週月曜日)、認められる機会の充実

あいさつ運動への意識を高めるため、計画委員会による校内放送での呼びかけ、よくできているクラスの表彰

星が丘中学校・・・毎月、生活委員会による昇降口でのあいさつ運動及び下校指導

毎日の生活でのあいさつの励行



生活委員会によるあいさつ運動（星が丘中）



小中合同あいさつ運動（上戸祭小）

（２）「いじめゼロ運動の推進」への取組

いじめの未然防止や早期発見，早期解決のために下記のような取組を行いました。

- ア いじめゼロ集会の実施（テレビ放送や体育館での集会形式による劇・標語の発表・クイズ 等）
- イ 教育相談や三者・個人懇談の実施による悩み等の把握，事前調査の実施
- ウ 各学級での指導（縦割り班での活動・いじめや人権に関する授業の実施・Q-U検査の活用 等）
- エ 学校生活アンケートなどの実施によるいじめの早期発見
- オ 学年会や職員会議，教育相談部会や生徒指導部会等での情報交換
- カ 児童生徒指導に関する職員研修の実施
- キ 情報モラル教育講演会の実施（戸祭小では希望制で保護者も参加）
- ク 学習発表会における生活委員会の寸劇（星が丘中）

（３）その他

- ① 各学校とも「褒めて認める機会」を増やし，児童生徒を積極的に称賛することで自己肯定感や自己存在感を高める指導を展開し，児童生徒の健全な成長を目指しました。
- ② 次年度に向け，「小中合同のあいさつ運動」の活性化や，中学校進学時に小学校からの引き継ぎがスムーズに行われるよう情報交換を密にしていくことを確認しました。

２ 不登校対策分科会

（１）今年度の活動と成果，課題

児童生徒指導強化連絡会で，不登校傾向が見られる児童生徒についての情報交換を行い，共通理解を図ることができました。ＳＣ面談とその後の情報共有が大変有効であったことが，小中共通の成果として挙げられます。特にＳＣ面談やコンサルテーションについては，具体的な助言をいただけたことが安心感につながりました。

課題については，家庭や諸機関との更なる連携を図り，不登校の児童生徒を少しでも減らしていくことです。

（２）来年度に向けて

引き続き，不登校及びその傾向が見られる児童生徒についての情報交換を行い，しっかりと引継ぎをする必要があります。小学校卒業から中学校入学の際のつまずきを軽減するための支援方法を考えていきたいです。

3 特別支援教育分科会

(1) 今年度の活動と成果

- ① 小中の情報交換会では、各校の人数や活動状況の報告、来年度入学予定児童などの情報交換を行いました。また、中学校での活動の様子、中学入学までに身に付けておくべき力や事柄を教えていただき、児童生徒が安心して学校生活を送るための手立てを共有することができました。また、学習方法の情報交換も行い、児童生徒が学習に意欲的に取り組めるような方法を紹介し合いました。
- ② 小中交流会が2月8日（木）に行われました。進学予定の児童が6年生を中心に星が丘中学校に集まりました。自己紹介や小学校と中学校の違いについての情報交換、中学校の校内見学を行いました。6年生は緊張した様子でしたが、段々と笑顔も見られ中学校への関心や期待が高まったようでした。次年度に向けて各校の児童生徒の実態把握や児童の進学への不安の解消を行うことができました。

(2) 来年度に向けて

- ① 特別支援教育は、児童生徒の細やかな情報共有や関わりがとても重要です。特別支援学級だけでなく、かがやきルーム通級者や通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒についても小中連携を図り、一人一人の支援に生かしていきたいと考えています。
- ② 小中交流会は、児童が安心して中学校に進学できるように、来年度も継続していく予定です。



星が丘地域学校園事務室

宇都宮市立学校の管理運営に関する規則に位置づけられている地域学校園事務室は、兼務発令を受けた学校事務職員が学校間の相互支援を通じ、学校事務の効率化を図るとともに学校園の運営に関する支援を行うため、学校事務を共同で実施する組織です。

学校事務の標準化・効率化を促進するとともに、事務職員の資質の向上を図ることを目的に今年度は下記の事業に取り組みました。

- ① 「物品有効活用システム」についての職員向け周知資料の作成・周知を行いました。今後もシステムの積極的な活用を目指していく予定です。
- ② 予算の効果的・効率的な執行のために地域学校園単位で4品の消耗品について共同単価契約を行い、物品購入の経費削減を図ることができました。また、養護分科会実施の「歯の磨き残りチェック」の薬剤・図書分科会実施の「しおり」の作成材料経費について、学校配当予算の「所管替」を行い一括購入し、経費を抑えることができました。
- ③ 就学援助事務について、受給申請や該当者一覧表の作成・管理、就学援助費の保護者への学校園同一支給日を設定し、小・中が緊密に連携した事務処理を行いました。また就学援助申請について、学校園共通の保護者宛て周知文書を作成し、事務の効率化を図りました。
- ④ 保護者の教育費設定の一助となるように、義務教育で必要となる経費について「9年間の教育費一覧表」を作成し、事務職員が各校の新入学保護者説明会で説明しました。
- ⑤ 事務室員のスキルアップを図るため、総合訪問や会計事務訪問に向けての関係諸帳簿の互審（確認）を実施しました。また、職員の扶養手当・住居手当・通勤手当についても互審を行い、疑問点について情報交換をすることによって、事務処理の精度を高めることができました。

次年度は、宇都宮市25の学校園事務室の共通取組課題を中心に、また、これまで実績を上げてきた多くの事業については継続して取り組んでいきたいと考えています。